広報かじき
No.350
昭和58年 12月号
発行 加治木町
編集 総務課

今年一年のしめくくり

年の暮れがせまってくる十二月は、なんとなく気ぜわしい月です。

今年一年間のしめくくりと新しい年を迎える準備に街を行く人もいつか足早に。

あわただしさにまぎれアキスやスリがねらっています。ご用心を。

年末年始は、忘年会や新年会などが続いて、酒を飲む機会も多くなります。

〝乗るなら飲むな、飲んだら乗るな〟を合言葉に、安全運転を心がけてください。

みんなそろって、明るいお正月を。

行く年やもどかしきもの水ばかり（千代女）

◈人口23,044（＋34） 男10,877（＋6） 女12,167（＋28） 世帯数 7,765（＋7） 58.11.1現在（　）前月比

四十二億六千八百八万九千円に

五十八年度上半期の財政事情を公表

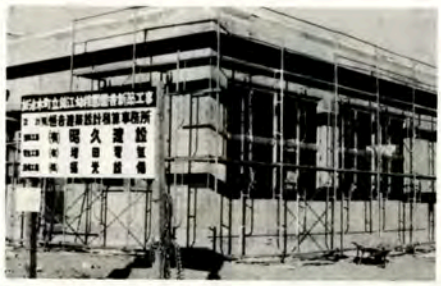
町では、年二回町財政の状況について公表することになっています。

これは、皆さんの納めた税金や、国・県からの収入がどうなっているか、どのように使われているか、また町債(借金)がどのくらいあるかなどについてお知らせするものです。昭和五十八年度上半期(四月から九月)の状況は次のとおりです。

三億七千万円余りを補正

昭和五十八年度一般会計は、当初予算額歳入歳出それぞれ三十八億九千五百万円に、四回の補正三億七千三百八万九千円を行い、四十二億六千八百八万九千円となりました。

上半期における歳入歳出の状況は、収入済額十八億一百十九万二千円で収入率四十四パーセント、支出済額十二億七千二百四十一万四千円で執行率は、三十一・九パーセントとなっています。



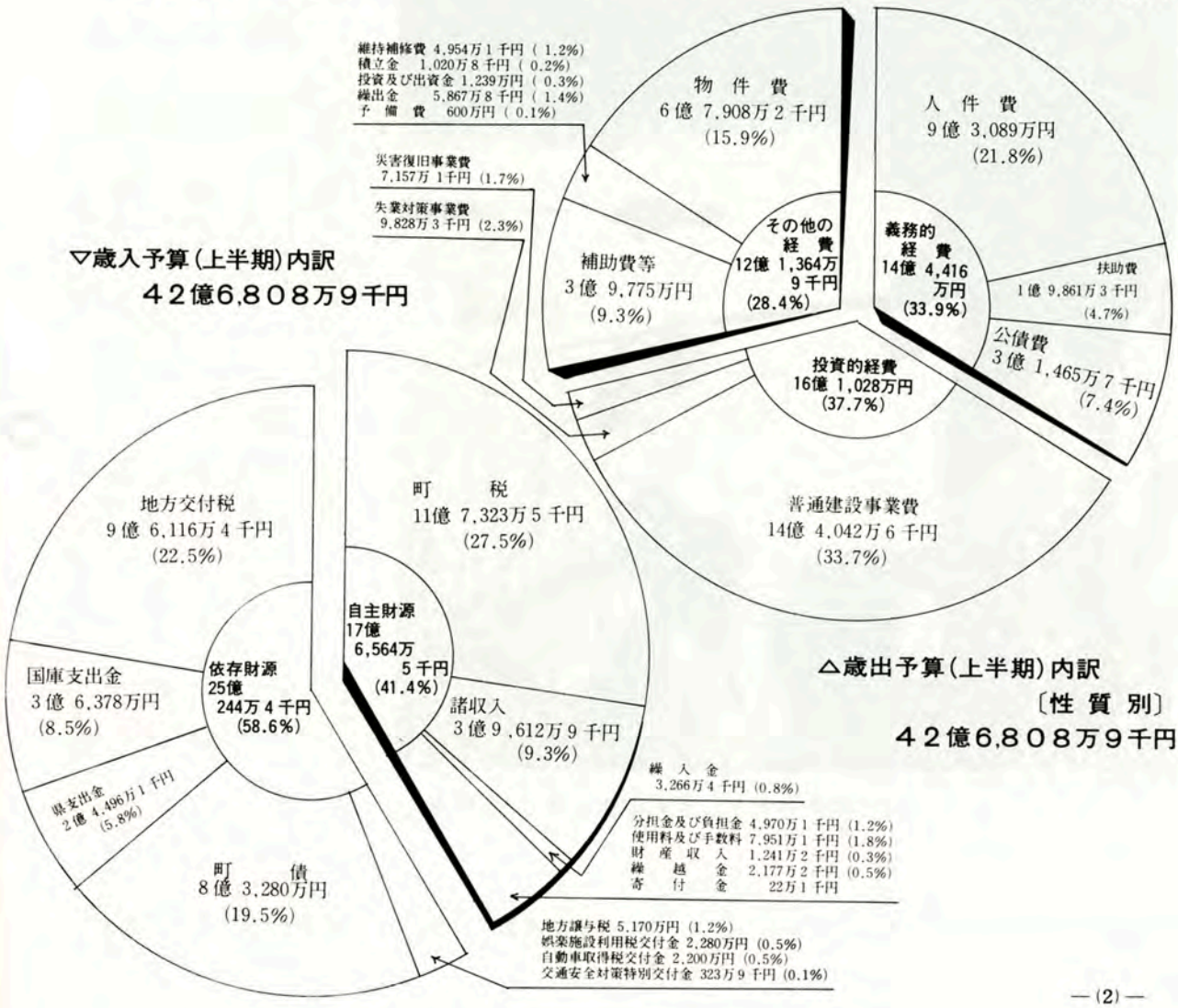
建設が進む錦江幼稚園

町独自の自主財源は四十一・四パーセント

歳入のうち町独自でまかなえる自主財源は十七億六千五百六十四万五千円、国や県への依存財源は二十五億二百四十四万四千円で、本町の財政は自主財源四十一・四パーセント、依存財源五十八・六パーセントで運営されていることになります。

自主財源のうち町税は十一億七千三百二十三万五千円で、予算に占める割合は二十七・五パーセントです。

≫一般会計≪



町民一人当りの税負担は
五万一千十円

町予算のうち約四分の一が町税によってまかなわれていることになりますが、これを町民一世帯平均と一人当りでみると税負担は次のようになります。

▽一世帯平均
十五万一千二百二十九円
▽一人当り…五万一千十円

上半期における収入済額より算出した納入済額は、一世帯二十三万二千一百七十二円、一人当りは七万八千三百十二円となっています。

依存財源の主なものは、地方交付税九億六千一百十六万四千円、国庫支出金三億六千三百七十八万円、地方債八億三千二百八十万円、県支出金二億四千四百九十六万一千円、地方譲与税など九千六百五十万円です。

幼稚園建設事業などに
十四億四千四十二万六千円

歳出については、性質別に大別すると人件費などの義務的経費が、十四億四千四百十六万円で予算の十三・九パーセントを占め、投資的経費は十六億一千二十八万円で三十七・七パーセントとなっています。

投資的経費のうち、普通建設事業費は十四億四千四十二万六千円で、主要なものは次のとおりです。

▽幼稚園建設事業費一億四千十九万八千円▽小学校建設用地購入費六億五千四百三十九万二千円▽道路整備事業一億五千五百十三万一千円▽農業構造改善事業五千二百八十万円▽都市計画事業六千三百万円▽臨時地方道整備事業四千五百万円▽農村基盤整備事業四千四十万円▽林産集落振興対策事業三千八百十三万四千円▽商工会館建設事業補助二千五百万円▽臨時河川等整備事業三千二百五十五万円▽温泉泉源掘削事業など二千一百万円▽公園整備事業一千四百九十万円▽小規模土地改良事業補助一千万円など。

九月末の契約率は三十六・一パーセントとなっています。

町の借入金は三十二億
九千三百十二万九千円に

町債（町の借入金）の五十七年度末現在高は、二十五億七千八百二十五万六千円であり、五十八年度中の借り入れ予定額が八億三千七百万円、返す額が一億二千二百十二万七千円でこれを差し引きすると、五十八年度末の残高は、三十二億九千三百十二万九千円になる見込みです。

なお本町の財政規模二十二億九千十一万三千円の百四十三・八パーセントになります。

決算の状況は一月号でお知らせします。

▼歳出予算（上半期）内訳〔目的別〕

冬の省エネ・ここがポイント①

室内の温度を適切に

部屋の中では少し厚着をして室内を暖めすぎないようにしましょう。

また、温度調節をこまめに行い、エネルギーを効率よく使いましょう。

部屋の保温を心がけよう

カーテンは厚手のものにし、天井から床まで垂らします。

また、できるだけカーペットを敷いたり、窓・壁などに目張りをして、換気にも気をつけながら、部屋の保温を心がけましょう。

洗たくはまとめて一度に

洗たくは、まとめて一度に決められた容量で行いましょう。

また、すすぎの前に脱水を行えば、大幅な省エネになります。

上半期の給水収益は一億一百六十五万七千円

≫水道事業≪

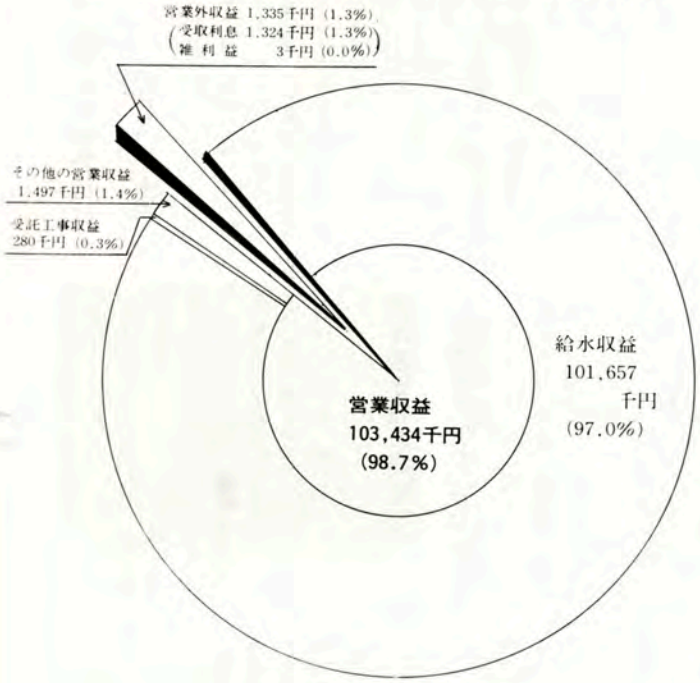
昭和五十八年度上半期の水道事業会計の状況は、水道事業収益が一億四百七十六万九千円で、水道事業費用は一億一千九百十八万七千円となり、損益勘定において一千四百四万五千円の純損失となりました。

事業収益の主なものは営業収益の一億三百四十三万四千円で、そのうち給水収益が一億一百六十五万七千円で収益の九十七パーセントを占めています。

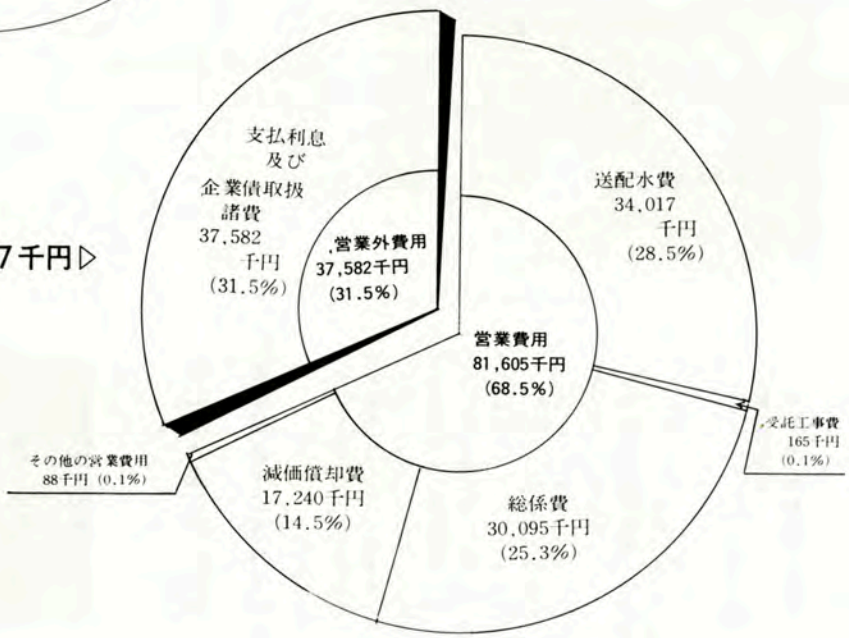
水道事業費用の内訳をみると、営業費用が八千一百六十万五千円（六十八・五パーセント）、営業外費用が三千七百五十八万二千円（三十一・五パーセント）となっています。

また、九月末の給水戸数は七千二百十戸（休止中を除く）です。

▽水道事業収益（上半期）　1億476万9千円



水道事業費用（上半期）　1億1,918万7千円▷



決算の状況は、一月号でお知らせします。

冬の省エネ・ここがポイント②

暖房機具の使い方に工夫を

暖房機具は、部屋の用途や大きさに合わせて選ぶのがコツです。

また、ストーブは時々手入れをすると、効率的にエネルギーを使うことができます。

さらに、暖房機具の置き場所にも注意してください。例えば、窓を背にして暖房機具を置くと空気の対流が十分に行われ、効果的な暖房ができます。

風呂は家族が次々に

冬は風呂が冷めやすいので、家族が続いて入浴するようにしましょう。

また、洗濯に風呂の残り湯を使うのも省エネです。

無事故で明るい1984年を

年の暮れは交通が混雑し、気ぜわしさも加わって交通事故の多発が懸念されます。家族そろって明るい一九八四年を迎えるため、次のことを守って交通事故防止に努めましょう。

★歩行者は正しい交通マナーを実践しよう。

家庭や学校、地域で話し合い、一人一人が正しい交通マナーを身につけましょう。道路で遊んでいる子どもや道路で戸惑っているお年寄りや体の不自由な人には、思いやりの心をもって声をかけ、安全に横断できるよう手助けしてあげましょう。

★ドライバーは安全運転を心掛けよう。

ふだんから車や二輪車は点検整備に気をつけ、ヘルメットやシートベルトを着用しましょう。

★飲酒、スピードの出し過ぎなど無謀運転を追放しよう。

「飲んだら乗らない、乗るなら飲まない、飲ませない」の実践を町民総ぐるみで徹底しましょう。

また、目まぐるしく変化する交通環境に適切に対応できるように「ゆとり」と「譲り合い」の気持ちを忘れずに、ドライバーは安全スピードを守りましょう。

交通規制図

一時停止などの交通規制が

県公安委員会では、左図の区域で次のような交通規制を実施することにしています。

▽20K速度制限…六路線
▽一時停止…五十七カ所
▽区域内はすべて駐車禁止

◎標識が立てられた時から効力が発生します。
標識に従ってください。

年末年始の犯罪や事故に気をつけよう

いよいよ師走です。家庭や職場でも何かと忙しく、防犯のことを忘れがちです。警察では、年末年始は一段と警戒警備を強化しています。町民の皆さんも次のことに気をつけましょう。

○空き巣ねらいが増えます。外出するときは、わずかな間でも必ずかぎをかけ、隣近所にひと声かけて留守を頼みましょう。

○車の往来がもっとも激しくなる時期です。ドライバーは安全運転に心がけ、また歩行者は忙しさにかまけての道路への飛び出し（幼児・子ども）などには特に気をつけましょう。

○車上ねらいやオートバイ、自転車どろぼうに気をつけましょう。

車やオートバイを離れるときは、必ずかぎをかける習慣をつけましょう。

○冬休みや正月気分の解放感から少年が不良化しやすいときです。

少年のこずかい銭や持ち物など日常生活や行動に気を配り、なんでも話し合える楽しい家庭づくりを心掛けましょう。

また、他人の子も我が子と同じと考えて、みんなの力で少年を非行から守りましょう。

よみがえる薩摩キャンペーンに

太鼓踊りが花を添える

鹿児島のもつ優れた自然や歴史伝統に根ざした地方文化など、豊富な観光資源を広く全国に紹介しようと行われている〝よみがえる薩摩〟観光キャンペーンに西別府の太鼓踊り（代表森木末吉さん）が出演し、花を添えました。

十月二十一日、県内の郷土芸能のうち太鼓踊りと棒踊りの保存会が鹿児島市の高見馬場から照国神社までの目抜き通りで、勇壮な踊りを披露したもので、沿道に集まった観衆から盛んな拍手を受けました。

郷土で、はぐくまれてきた伝統芸能は、いつまでも大事に伝承してゆきたいものです。

花をそえた太鼓踊り

愛のパトロールを実施

町青少年問題協議会委員が

青少年の健全育成を…

十一月は「青少年の夢と希望をはぐくむ運動月間」。〝育てよう若い芽を、地域で、家庭で、学校で〟をスローガンに、青少年健全育成の運動が展開されました。

十一月十一日、県青少年婦人課の職員らが、文部大臣と県知事のメッセージを向江助役に伝達。また十一月七日には、町青少年問題協議会（会長東町長、委員二十五人）の委員が、青少年のたまり場になりやすい町内の神社や施設を巡回する「愛のパトロール」を実施しました。

春日神社や竜門滝などを巡回した委員は、「パトロールした場所は青少年の健全育成の場としても最適であるが、反面問題の場所ともなりやすい。非行の温床とならないよう今後環境整備を図ろう。」とこれからもパトロールなどを進めてゆくことを決めました。

「加治木小学校」と命名

新設校の名称決まる

町教育委員会では、錦江第三地区に昭和六十一年四月から開校する予定の新設小学校の名称を募集していましたが、「加治木小学校」と命名することに決定しました。

校名募集には、町内はもちろん県内各地から百十通もの応募があり、校名選考委員会で慎重に審議した結果、教育と文化の町としての伝統を誇りとする既設の小学校とともに、さらに新しい意欲に燃えた学校づくりを期待して名付けられたものです。

町成人式は一月十五日

福祉センターで実施

昭和五十九年の町成人式は、一月十五日（日）九時三十分から、町福祉センターで開催されます。

町教育委員会では、女子の服装については、華美にならないよう平服での参加を呼びかけています。

郷土史探訪 6

加治木銭と澪標（みおつくし）

加治木銭は、天正年間から寛永十三年ごろまで、海外貿易の盛んな時期に私鋳して使用された貿易銭であると言われています。

最も盛んに鋳造されたのは、慶長十二、三年ごろでした。

そのころ島津義弘が、加治木を本拠としていたので、木佐木正繕を主司とし、担当者として是枝利助を田布施から召し、鋳銭の資として蒲生米丸御蔵と、加治木水夫屋敷の蔵から銀米を出して、銭屋町（現在の新町）で鋳造させました。

加治木銭の多くは、洪武通宝や大中通宝などですが、その裏面に「加」「治」「木」の三文字の一つが入っているので、加治木銭ということが一見してわかり、その中でも「治」の字が最も多く、「木」の字は稀であり、「加」の字のものは最も稀で現在、日本国内には一枚もないのではないかと言われています。

加治木で鋳銭が行われたのは、加治木は古くから澪標（通行する船に、通りやすい深い水脈を知らせるために立てた杭）を設けた特殊の港であり、また鋳物類の製造が盛んであったからと思われます。

寛永十三年、幕府は寛永通宝を鋳造し、私鋳を禁止しましたので、薩摩藩でも加治木銭の鋳造を停止しました。

（筆者　瀬川　新義）

▽筆者紹介

このシリーズは、町文化財保護審議会委員の瀬川新義さんと町社会教育指導員の林力夫さんに執筆いただいております。

※次回は「隈姫神社」です。

加治木銭（拓本）と鋳銭所跡の碑

自治会旗と憲章を制定

垂之口自治会

町の「老人と子どものふれ合い事業モデル地区」として活動を進めている垂之口自治会（大園道雄会長、百三十一戸）では独自の憲章と自治会旗を制定し、十一月六日町役場グラウンドで開催した運動会で披露しました。

垂之口自治会では、自分達の街づくりは自分達の手でと、今年四月「明日の垂之口を考える推進協議会」（西清文会長、委員二十六人）を発足させ、これまで自治会規約の改正などを進めてきました。

今回の憲章、自治会旗の制定も街づくりの一環として地区民から募集したもので、審査の結果、憲章は東兼秀さん、会旗は枝元久夫さんの作品が選ばれました。

垂之口自治会憲章

一、私たちは　心を一つにして
　活気にみちた　住み良い
　垂ノ口づくりに努めます
一、私たちは　きまりを守り
　健康で　明るい
　家庭づくりに努めます
一、私たちは　自治会を通じて
　青少年に夢と希望を
　お年寄りに安らぎを
　与えるよう努めます

制定された自治会旗と枝元さん

会旗は「垂」の字を図案化、子供を大人がささえ、団結と融和を図り、垂之口発展のため街づくりに取り組む姿を表現しています。

旗の色は、近くの綱掛川の水の色を表わすブルー。

運動会では、西清文さんと畠田輝保さんから寄贈された会旗が会場に飾られ、全員で憲章を読みあげ心豊かで明るく住みよい自治会づくりを誓い合いました。

辺川の棒踊りが

三十一年ぶりに復活

「ソイサーサッ、エイエッ」「インヤサー」の鋭い気合いとともに六尺棒と木刀が、力強い音をたてぶつかり合う。

辺川地区（小宮路勇公民館長）で三十一年ぶりに郷土芸能の棒踊りが、地区民から物心両面の援助を得て復活。十一月六日鎮守小学校跡地で開かれた運動会で披露され、盛んな拍手を受けました。

この棒踊りは、島津義弘公の朝鮮の役での勝利を祝い始められたと伝えられ、昔から地区の行事などで踊られていたもので、昭和二十七年ごろ踊られて以来とだえていました。

辺川地区では、五十八年三月の総会で棒踊りの復活を決め、神園義彦さんの指導のもと、地区総ぐるみで復活を進めてこられました。

辺川の棒踊りは、鎌ではなく木刀を使う所が他の棒踊りと異っており、運動会では白ハチマキに色あざやかなタスキがけの姿で勇壮な踊りを披露しました。

小宮路地区公民館長は、「地区民全員の協力で復活ができた。これからは毎年踊り、保存してゆきたい。」と話されました。

勇壮な棒踊りが

永原小学校が入選

南日本花だんコンクール

花いっぱい運動を通じて、美しい郷土づくりを地域社会や学校ぐるみで実践する目的でサンライフ運動協議会が毎年実施している、第十五回花だんコンクールで永原小学校（藤山恵三校長、児童数九十九人）が入選に輝きました。

永原小学校では、全校あげて花いっぱい運動に取り組み、今年も三年生以上は大菊、一、二年生は小菊を丹精こめて育ててきており、校庭は菊やサルビアの花で美しく飾られていました。

みんなで育てたキク

みんなそろって明るいお正月を

十二月は「歳末たすけあい運動」の期間です。

法務大臣表彰に塚本さん

更生保護関係表彰

法務省は、昭和五十八年度の更生保護関係の表彰をこのほど行いましたが、本町からは次の三名の保護司が「社会を明るくする運動」や犯罪予防に尽くした功績により表彰されました。

○法務大臣表彰　塚本直人（東塩入）
○九州地方更生保護委員会
　委員長表彰　四元鈴子（豊町）
○鹿児島保護観察所
　所長表彰　篠崎利治（上木田）
○ＢＢＳ会員　森なな子（高井田）

優秀賞に増田さん

「薩摩義士」読書感想文で入賞

県育英財団（理事長・鎌田要人知事）が募集していた「薩摩義士」読書感想文には、県内の小中学校から三百九十六点の応募があり審査の結果、増田美和さん（柁城小学校・六年）と青谷奈皇美さん（鹿児島市）の二人が優秀賞に選ばれました。おめでとうございます。

城北地区が二連覇

地区対抗駅伝大会

雲一つない秋晴れの十一月二十日、町教育委員会主催の地区対抗駅伝大会が加治木女子高校前をスタート。各区間の半分でおり返し、スタート地点で中継する形の十区間二十・五キロに六チームが参加しました。

競技は、一区ごとに順位が入れ替わる白熱したレースが展開され、公民館長や地区民は盛んに声援を送っていました。結果は次のとおりです。

▽地区別順位

優勝…城北②永原③錦江一④城東⑤城南⑥錦江三

▽区間賞

一区常盤正秋（城北）**二区**加藤瑞恵（城南）**三区**向江さゆみ（永原）**四区**浜田享（城南）**五区**小原争時（錦江一）**六区**白瀬真一（錦江三）**七区**神宮司ひろみつ（城東）**八区**中山正幸（永原）**九区**中尾久代（城東）**十区**井上貴光（城南）

教育長の合図でスタート

中森光哉さんが金賞に

全国身障者スポーツ大会

喜びの中森光哉さん

十月二十九、三十の二日間にわたり、群馬県前橋市で開かれた全国身障者スポーツ大会に出場した中森光哉さん（垂之口）が、金賞に輝きました。

〝愛のあかぎ大会〟をテーマに行われた大会には、本県から十八人が参加。中森さんは、ソフトボール投げ、百㍍走の二種目に挑戦し、見事金賞（一位）を獲得されたものです。

▽本県の成績…金18、銀12、銅3

Aクラス・合庁 Bクラス・スネークス が優勝

寒風をついて熱戦が

よくねらって

公式戦の最後を飾る町ソフトボール協会主催の秋季大会が、十一月十三日町営グラウンドで開催され、Aクラス十チーム、Bクラス六チームが参加し、寒風を吹き飛ばす熱戦を展開しました。

決勝戦の結果は次のとおりです。

▽Aクラス

クリーン	1	3
加治木合庁	0	5

▽Bクラス

スカイホーク	1	1
スネークス	0	9

木田Aチームが優勝

町ゲートボール大会

町ゲートボール大会（町教育委員会主催）が、十一月十八日町役場グラウンドで開催され、二十四チーム百六十八人が参加しました。

結果は次のとおりです。

優勝…木田A②塩入③本町④諏訪

札立子ども会が二連勝

第二回柁城校区小中学校少女ラケットボール大会が、十一月二十日町役場グラウンドで開催され、十二の子供会が参加しました。

決勝戦では、札立子供会が十四対〇で於里子供会を破り、二連勝を達成しました。

三位は下新道子供会でした。

公認審判員に三人合格

県ソフトボール協会が認定する公認審判員（二種）に、次の三人のかたがたが合格されました。

▽迫田正則（岩原西）坂元和久（小鳥）木場正夫（井手向）

ふくしの窓口 ⑩

母子寡婦世帯が対象「福祉資金」貸付事業

母子および寡婦家庭の経済的自立と生活意欲の助長を図り、その福祉を増進するために必要な資金の貸付を行っています。

貸付の対象

①母子…配偶者のない女子で二十歳未満の児童を養育する者

②寡婦…配偶者のない女子でかつて母子家庭の母であった者

貸付金の種類

㋐事業開始資金 ㋑事業継続資金 ㋒修学資金 ㋓技能習得資金 ㋔修業資金 ㋕就職支度資金 ㋖療養資金 ㋗生活資金 ㋘住宅資金 ㋙就学支度資金 ㋚結婚資金

償還は年賦、半年賦、月賦いずれも可能で、繰上げ償還もいつでもできます。

なお、貸付限度額や利率など詳しいことは町福祉課へどうぞ

136チームが技を競う

第16回義弘公奉賛武道（剣道）大会

第十六回義弘公奉賛武道（剣道）大会が、十一月二十三日加治木中学校体育館で開かれ、県内各地から百三十六チームが参加した会場では鋭い気合いと、盛んな拍手が一日中響いていました。

結果は次のとおり。

◎小学生の部

優勝…加治木剣道スポーツ少年団②富隈剣道スポーツ少年団A③富隈剣道スポーツ少年団B③黒木小学校剣道スポーツ少年団A

◎中学生の部

優勝…隼人中A②牧園中A③菱刈中A③尚道館A（加治木町）

◎高校生の部

優勝…鹿児島実業C②鹿児島実業B③鹿児島商工C④鹿児島商業C

◎一般の部

優勝…鹿児島クラブ②鹿児島刑務所③国分剣親会③姶良町A

大喜びの加治木チーム

真剣な打ち合い

加治木チームが五連勝

郡老人スポーツ大会

十月二十七日菱刈町で開かれた第十二回姶良伊佐地区老人スポーツ大会で、町老人クラブのチーム（選手四十人）が優勝し、みごと五連勝を達成しました。

「今年も優勝を」と天神公園で特訓を積んできた選手たちは、郡内の強敵をものともせず、前半から大きくリード。昼食時の飲み物も〝お茶だけ〟という節制ぶりで、体力的、精神的に他町を圧倒し、五年連続の優勝を勝ち取りました。

青少年の豊かな心を育てよう⑧

他人を思いやる心

世の中を知って自分を見つめる

子供たちの行動や生活態度には、時として、他人に対する甘えやおごりが目立つことがあります。これは、一つには子供たちがまだ社会の仕組みやしきたりをよく知らないため、と考えられます。もっと世の中のことを理解させるとともに、自分を厳しく見つめ、行き過ぎた行為をしないよう自らを戒める――こういう生活態度を身につけさせたいものです。

社会という人間の集団は、他人との共存によって成り立っています。他人に対する信頼感と思いやりの心こそ、社会生活をスムーズに送るうえで欠かせないものです。そのためにも、人との出会い・触れ合いを大切にし、〝対話〟の機会を増やす工夫と努力の大切さを理解させるようにしましょう。

〈豊富な体験が自己を確立させる〉

一方、子供たちの自主性や活動力を育てるには、ふだんの生活の中で、年齢に応じて一定の役割と責任を与え、幅広い体験をさせることが大切です。また、家事の手伝いなど、汗を流す勤労の経験も貴重です。

〝非行防止〟は、ともすると、日常生活に規制を加えたり、行動を制限したりすることに重点が置かれがちです。もちろん、そうした〝抑制〟も大切ですが、一方では、豊富な生活体験を通して自主性や活動力を養い、自ら考え、判断することの積み重ねの中で自己の確立を図っていくことにも留意したいものです。

世の中を知り自己を確立させるために

★目標を立てていろいろな体験をさせよう

- 草花の手入れや小鳥の世話、ジョギングや縄跳びなどを毎日どのくらいの期間続ける、といった目標を立てて実行する。
- 目標が達成されたら、家族や近所の人たちと「お祝い会」などを開く

★汗を流して働く喜びを味わわせよう

- 花いっぱい運動――学校や家庭で〝一人一鉢〟を実践する
- 子供会や学校などで、みんなが参加してイモや野菜などをつくり、収穫を祝う集いを開く

年ごとにレベルが向上

第25回　町美術展

第二十五回町美術展が、十一月十一日から十三日までの三日間、町福祉センターで開催され、延三千人以上の参観者の目を楽しませました。

会場には、町内小中学校の児童、生徒の作品を中心に習字や図画など七百三十三点が展示されました。

初日の十一日には、町長賞など優秀作品の表彰が行われ、審査に当たられた先生から「年ごとにレベルが向上しており、小中学生ともすばらしい作品ばかりでした。」と講評がありました。

特別賞は次のかたがたです。

▽特別賞の部

町長賞
図画　山下　伸之（錦江　三）
毛筆　桑幡　裕子（柁城　三）

議長賞
毛筆　白浜　渉（柁城　五）
工作　千葉　基（加中　二）

教育委員会賞
図画　町田和之（加中三）
毛筆　渋谷友美（加中三）

南日本新聞社賞
図画　小濱氏文（永原一）
毛筆　早崎さおり（加中一）

商工会長賞
毛筆　太田有紀（柁城四）
図画　松葉瀬雄一（竜門六）

農協長賞
工作　堀切　亮（柁城四）
毛筆　重留昌実（加中二）

南日本書道会賞
硬筆　若松志保（柁城一）
硬筆　老山久美子（柁城二）
毛筆　四元美紀（柁城六）

力作の展示が…文化祭

芸能発表や力作の展示が…

第十七回　町文化祭

第十七回町文化祭が、文化の日の十一月三日（展示は二日から）町福祉センターで開催され、日ごろ修練を積んでこられた芸能の発表や、作品展示が行われました。

展示会場には、写真をはじめ、短歌、俳句、書芸、盆栽、編物、生花、洋画、日本画などいずれ劣らぬ力作二百点余りが展示され、二階ホールでは、昼夜二回にわたって日舞やコーラス、詩吟、琴、尺八、三味線、民謡など四十七の芸能発表があり、おおぜいの観衆が熱心に見入っていました。

芸能発表の中では、十一月十三日栗野町で開催された地区芸術祭に参加する歌吟「月夜荒城の曲を聞く」も発表されました。

第三会議室では、裏千家同好会による茶会も開かれ、静かに茶道をたしなむ姿も見られました。

お点前風景

芸能発表

全国書道検定に五十四人が合格

九月二十日、日本教育書道連盟主催の検定試験が実施され、五十四人のかたが合格されました。

◎一般部（高校、大学、一般）

▽漢字科
六段　宝蔵涼子、桐山三千代
三段　大宮路照子
二段　堂森　近、福元三千代
初段　坂元菊志、浜田恭子
本渡愛子、福島正利
野上礼生、市成美智代

◎教育部（小中学生）
二段　満尾真由美、蓬原まなみ
川上了子
初段　園田なるみ、中村好一
満尾めぐみ
一級　日高律子、川上倫子
中畠聡子、橋本成代
二級　田辺陽子、神宮達也
猪俣裕美、鶴園　恵
三級　山下かえで、中島正義
青木ゆかり、古市志信
一氏清子

※四級以下は省略しました。

竜門句会

竜胆や牧舎に牛の乳張りて　鶴田　耕

茶の花や山脈うすく雲刷きて　井之上透山

燈下親しロマンのモデル知巳として　川崎　黒兎

烏賊焼きて能登の海辺は秋の暮　三浦　ゆう

祈願絵馬あまた掲げて神の留守　横山　江南

山襞に昏色見えてそぞろ寒　加藤　白柳

陽光を集め尽して大公孫樹　高木　正男

目を病める妻を連れ立ち菊花展　柳田　稔

菊鉢に蜂来る虻来るたへまなく　古江　重美

さきがけて翳る巌が冬の色　上野　光

ひこばえを伐りて明るし秋の窓　宮脇　思川

園児らがイモ掘り

加治木幼稚園（飯島光夫園長代理）の園児百五人が十一月九日、小山田の山口正春さんのカンショ畑でイモ掘りを楽しみました。

園児たちは小さなシャベルなどを手に大きなイモを掘り出して「取れたぞ」と大喜び。持ってきた袋はたちまちいっぱいになりました。

けれどもあまり取りすぎたのかなかには重すぎて運べず、ベソをかく子もいて先生たちは汗だくで手伝っていました。

シャベル片手に

戦死者の霊に献花

町戦没者追悼式

町戦没者追悼式は、十一月十五日福祉センターで遺族など約三百人が参加し行われました。

式では東町長の式辞に続き、下猶町議会議長、稲恒遺族会長らが戦死者の霊に深い哀悼の辞を述べるとともに、遺族のかたがたを激励し、平和を誓いました。

戦後三十八年、幾多の苦難をのり越えてこられた遺族たちは、ありし日の夫や息子を思い浮かべながら、「御霊よやすらかに」と一人ひとり菊の花で飾られた祭壇に花を供えました。

菊の花を供えて

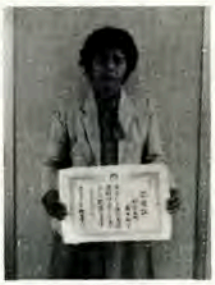
森木和子さんに認定証

県農村ホームリーダー

農業の良さを見直し、農村に生きる誇りと生きがいをもつ婦人を育てようと、農業改良普及所や県が実施する二年間の研修を終了した農村婦人リーダーに、森木和子さん（隈原下）が認定されました。

森木さんは、これから自分自身の生活を通して地域の婦人を指導。

生活時間の計画的な実践や、農産加工の技術指導など農家の生活向上やむらづくり活動の推進役としてその活動が期待されます。



ホームリーダーに森木さん

池田剛成くん 小宮路あゆみさんが 図画の部で入賞

県「ごはん・お米とわたし」図画作文コンクール

日本の主食である米に対する正しい知識と理解を深める一助として県が毎年実施している「ごはん・お米とわたし」図画・作文コンクールの図画の部で、池田剛成くん（永原小学校一年）が〝知事賞〟に、小宮路あゆみさん（永原小学校六年）が〝農協中央会会長賞〟に輝きました。

おめでとうございます。

三宅島の災害に 義援金を贈る

十月三日に起った三宅島噴火による災害に、町内の個人や団体から「災害義援金」が町社会福祉協議会に寄せられ、同協議会では早速、東京都の日本赤十字社本部に送金いたしました。

▽川上登良子（西諏訪）　二千円
▽布越自治会　三千円
▽加治木女子高校・生徒会一同　三万一千二百五十円

風邪

十一月も中旬過ぎますと、ほとんどの植物が来春に備えて休養しますので、薬草の識別が困難になります。そろそろ風邪のシーズンともなりますが、今年は悪性の風邪がまん延しそうです。

くしゃみ三回風邪かな、と思ったら、ニンニク三分の一ほど刻み半熟卵に抱きこませ、かまずにすすりこんで下さい。臭いもなく知らぬ間に風邪が逃げます。

おろし大根にはちみつを入れ、熱湯を注いで飲むのもよい。大根（しっぽの辛いところ）をすりおろし、その汁を熱い風呂につかりながら飲み、上ったらすぐふとんをかぶって寝るのもよろしい。

生れんこんとしょうがをすりおろし、お湯を注いで飲むのも効き目があり、きんかんを砂糖で煮つめびんに保存、この甘きんかんをつきほぐしてお湯を注いで飲む。

高熱が続く場合、バショウにきずをつけると水が出ますが、これを飲めば奇妙に熱が引きます。南国特有の生活の知恵なのです。

身近かにある決定版。ねぎの白い部分を一本細くきざみ、みそ（拇指大ほど）、かつおぶし、卵黄一個、ニンニク三分の一ほど、梅干一個を加えてどんぶりで練り、熱い湯をいっぱい注いで飲む。

すぐふとんにもぐると五分もしないうちに汗が出始め、小一時間もがんばると、全身汗でぐっしょりになります。熱も引き息苦しい鼻づまりもスポーンと開き気分そう快…。特に妊婦におすすめします。

（筆者　上萩大治）

薬草 知られざる効き目 ③

風邪の子を
抱きしめ母も
風邪ごこ地
漢水

お知らせ

町立幼稚園の願書受付は一月二十一日まで

五十九年度町立幼稚園の入園願書を次のとおり受け付けます。

▽願書の受付期間
五十九年一月九日(月)から一月二十一日(土)正午まで

▽願書の提出場所
錦江校区は、錦江幼稚園へ（その他の校区は加治木幼稚園まで）

▽募集園児数
加治木幼稚園　百二十人程度
錦　江幼稚園　五十五人程度

▽応募資格
町内に居住し、昼間家庭に保護者がいる健康な四歳児と五歳児（四歳児…五十四年四月二日から五十五年四月一日までの出生児、五歳児…五十三年四月二日から五十四年四月一日までの出生児）

▽選　考
願書の締め切り後、各幼稚園で一月二十五日(水)に行います。（方法と時刻は、申し込み者全員に各幼稚園から通知します。）

◎入園願書は、一月九日以降各幼稚園にあります。

◇問い合わせ先
加治木幼稚園　電話②2502
錦　江幼稚園　電話③2038

印鑑登録と印鑑証明は

◎印鑑登録は……

▽本人が窓口に来られた場合、印鑑登録および印鑑証明の交付は即日交付できます。

▽代理人の場合は、本人宛に確認の照会をし、その回答により登録されますので、即日の印鑑登録や印鑑証明の交付はできません。

▽印鑑登録が未登録で、印鑑証明の必要な方は、本人が窓口まで来られ、登録をされるようおすすめします。

▽印鑑登録手帳は、登録をされた時交付します。

◎印鑑証明は……

▽印鑑証明は、印鑑登録をされないと交付できません。

本人、代理人にかかわらず、必ず〝印鑑登録手帳〟が必要です。

本人の場合、印鑑登録手帳だけで交付できますが、代理人の場合は、印鑑登録手帳と委任の旨を証する書面が必要です。

※最近、印鑑登録手帳の紛失が多いようです。大切に保管してください。（紛失されたかたは、再度印鑑登録をすることになります。）

五十九年度赤十字看護婦学生を募集

日本赤十字社鹿児島支部では、五十九年度の看護婦学生を募集しています。

▽受験資格…高等学校を卒業した者（卒業見込みの者を含む）

▽募集人員…四　人

▽修業年限…三か年

▽養成の場所…山口県・山口赤十字看護専門学校

▽出願期間…五十九年一月五日から一月二十八日まで

◎入学案内、願書用紙の希望者は、郵便切手七十円を同封し、次の支部へ申し込んでください。

鹿児島市鴨池新町一の五
日本赤十字社鹿児島県支部
（電話0992-52-0600）

うぶ声

十月二十一日から十一月二十日まで受付分

	出生児	保護者	自治会
桑幡	浩子	学	萩原
榎谷	寿理	伸一	隈原下
野崎	慎也	健一	西江口団地
原	隆三	善猛	豊町
日高	麻美	順一	田中
黒田	瑠衣	孝	西江口団地
大嶺	誠	公徳	春日団地
川原	大輝	卓郎	川原
川畑	幸美	雅裕	蒲生田二班
濱田	歩美	一徳	豊町
長尾	彩香	賢次	内原田
有元	省吾	勇	萩原
榎谷	真奈美	光裕	西岩原
宮路	祐梨子	俊信	須崎
林	典子	哲朗	内原田
前田	周作	信秋	西塩入中
東	大輔	俊則	曲田
久本	周平	勝紘	内原田
湯川	貴子	忠治	西江口団地
杉木	あや	正行	西塩入下
片平	和紀	和夫	下浜
酒匂	大樹	久輝	蒲生田二班

御寄付

香典返しの代わりにご寄付をいただきました。厚くお礼申しあげますとともに故人のごめい福をお祈りいたします。（　）内は故人。

＝町社会福祉協議会へ＝

十万円　東諏訪　神田禎七（妻恭子59）
三万円　永　原　内村千鶴子（夫健49）
二万円　上川内　上野初男（姉フヂエ60）
五万円　里ノ下　村橋シズ（夫久雄86）
三万円　柳　田　藤崎マサエ（夫　松田義一74）
五万円　楠　園　増田　繁（妻文江70）
三万円　向江町　西薗トミ子（夫竹雄49）
三万円　中福良後坂元重子（義母トシ81）
五万円　茶碗屋　川原秋江（夫静一79）
二万円　川　内　川内国光（妻ケサノ76）
二万円　下　嶽　樗木隆義（妻タマ72）
十万円　竹　下　中摩不二江（夫仙91）

＝町育英奨学資金へ＝

三万円　柳　田　藤崎マサエ（松田義一）
二万円　向江町　西薗トミ子（竹雄）
十万円　竹　下　中摩不二江（仙）

＝町国民年金協議会へ＝

二万円　茶碗屋　川原秋江（静一）

＝町老人クラブ連合会へ＝

三万円　竹　下　中摩不二江（仙）
二万円　岩原西　新原文雄（妻シヅエ72）

▽十一月二十日までのご寄付を掲載いたしました。

記事訂正とおわび

十一月号の八ページの記事に誤りがありました。深くおわびし、次のとおり訂正します。

○うぶ声

	出生児	保護者	自治会
中摩	麗	英治	竹　下

○御寄付

桑　迫　山下ミツエ（夫近吉60）
新　町　篠原隆義（母ツル81）